

石川県子ども政策審議会第2回公聴会の開催結果（概要）

【概要】

日 時 令和5年10月18日（水）13：15～15：15
 場 所 石川県庁11階 1109会議室（金沢市鞍月1丁目1番地）
 テーマ 安心して子どもを預けられる幼児教育・保育について
 参加者 保護者（3名）、保育関係者（3名）、
 委員（15名）：大畑、奥野、釜土、川越、高木、田邊、中黒、新田、野口、
 開、前田、源、本谷、守、安田 ※敬称略

○安心して子どもを預けられる幼児教育・保育に向けて必要なこと

- ・ 安心は信頼から生まれ、園と家庭がどう手を取り合うかという所から信頼が生まれてくる。スマホにアップされている写真や文字だけじゃなく、懇談会で子どもたちの様子を伝え合い、すり合せられる機会があることがとても大事だと思う。懇談も多ければ多いほどいい。園と相談できる関係であることは、とても心強く、子育てを見守ったり背中を押したりする力になると実感しており、安心して毎日を送れることに繋がる。（保護者）
- ・ 信頼関係が必要だと思う。参観の日には、先生たちが少人数で懇談会を開き親身に話を聞いてくれたり、夏のプールに関する方針についても園長先生から丁寧に説明があったりして安心した。迎えの際に、少し怪我をしただけでも、先生方が玄関まで急いで来て、怪我の説明をしてくれた時も、安心してこの園には預けられると感じた。（保護者）
- ・ こども園では、連絡帳のやり取りが先生との唯一のコミュニケーションで、先生もそれをわかってきているため、毎日連絡帳を本当に細かく書いてくれるおかげで、子どもとのコミュニケーションが取れている。（保護者）
- ・ 現在の園長は、すごく保護者目線で、保護者の気持ちに寄り添ってくれるし、園に行くと玄関で出迎えてくださり、毎回、体調や近況を細かく聞いてくれる。懇談会も絶対に参加して、一番多く話をしてくれて、とても身近に感じる園長なので、信頼できる。（保護者）
- ・ 子どもたちと一緒に活動に参加して、子どもがどんな反応をしているかということ、きちんと見ていてくれて、他の先生と同じように子どもの対応ができる園長先生であってほしいと思う。今の園長先生は、とても忙しそうだが、それでも子どもたちと活動している姿や会話している姿を見るので、安心できる。

- ・具体的な意見を3点。①通園バスの事故については、子どもでもタッチぐらいはできるので、IDカード等の導入を検討してはどうかと思う。②不審者対策として、登下校時に警察の方にパトロールしていただけるとありがたい。③保育士の給与アップや福利厚生の実により、保育士が働きやすく、余裕が持てるようにすることで、保育の質も自然と上がり、登園時のチェック漏れやうっかり事故が減ると思う。(保護者)
- ・日本の子どもに対する対応の常識がまだまだ子ども視点ではない。1990年に子どもの権利条約が批准され、こども家庭庁も子どもの権利をグッと押しだしているのに、子どもの権利を当たり前とするところが必要。そのためには、家庭との連携も必要。(保育関係者)
- ・今の保育者は、子どもにも権利があるという意識が欠けているから、不適切な保育が起こると思って、改めて子どもを1人の人間として見て、保育をしようと感じた。(保育関係者)

○安心して子どもを預けられる幼児教育・保育に向けて行政に求めること

- ・家の近くの園を探していた際に心無いことを言われ、先生方の心の余裕のなさを感じた。待機児童ゼロとは言いつつ、年少から下の未満児クラスは探せば空いているが、家の近くはいっぱいで、先生が足りていないと感じた。保育料の無償化はとても嬉しいが、親は子どもの安心・安全のためならお金惜しまないと思うので、保育士確保や処遇を改善したらいい。(保護者)
- ・事業者側とすると、人の確保が子どもの安心に繋がると考えるが、奥能登は人口減少が激しく、保育士が確保できないために入園をお断りする現状がある。保育事業者だけの問題ではなく、地域の生活自体が維持できなくなる不安があるので、少子化・人口減少問題を議論してほしい。(保育関係者)
- ・保育所等では細かな保育サービスをしているが、小学校に進学すると、そのサービスが一切なくなり、保護者がギャップについていけず、保育所に相談することがあった。小学校に進学すると、病児・病後児保育もなくなるし、幼保小接続が上手くいく県独自の施策があればいいと思う。(保育関係者)
- ・統合保育を拒否している園が県内に多くあることは、運営者、園長や理事会の問題でもあるが、行政としても指導してもいいのではないかと。こども園であればインクルージョンの考え方に立つべきで、保育所、幼稚園、こども園だからと区別するのは時代遅れ。もっと子どもの立場に立って、子どもが今置かれている情報量に立って適用すべき。制度のシステムや長年のしこりがあってできないという言い訳は子どもたちの前で言えない。(保育関係者)

- ・今パートで休みにくく、年次休暇も少ないため、毎月ある懇談等のために仕事を休むことが難しいので、子育てしている親に対しての「子育て参観休暇」があればいいと思う。より気軽に、堂々と子育てに参加しながら働ける環境になるとよい。(保護者)
- ・都市部に住んでいた時は、実家も遠いが、一時預かりのハードルが高くて、結局一度も利用しなかった。石川県に引っ越した際、役所でクーポン冊子をいただき、一時保育の無料券だけでなく、科学館や水族館等のクーポンもたくさんあり驚いた。実際に一時預かりを利用したが、簡単に預けることができてとても助かった。(保護者)
- ・都市部では、2歳時に年年少という形で、週1回1時間ほど、最初は保護者同伴で通い、最後の半年は保護者と別れて1時間ほど見てもらう、プレ幼稚園というシステムがあった。実際に通い出す前に準備期間があることで、園の雰囲気分かって安心できるし、プレ幼稚園に通うことで優先的に入園ができることもあり、兄弟で違う園に通うことも減ると思う。(保護者)
- ・専門家の方たちが考えていることを聞かせていただき、今回の公聴会はとても勉強になった。少人数ではなくもっと保護者を呼んで、子どもも連れて、このような会を頻繁に開いていただきたい。(保護者)

○現在通園している保育所等を選んだ理由・良い点について

- ・コロナ禍を機にあまりに狭くなったコミュニティのもどかしさを感じたが、幼児期こそ人間形成の土台になる時期のため、もっと深く人と関わり、家庭だけでは経験できないことを体験させてあげられるような場所で子どもがのびのび過ごす中で、親として成長を見守りたいという思いが強くなり、より教育に特化した場所へ転園することを決めた。子ども2人とも同じ幼稚園に通わせたいが、下の子が幼稚園には入れられない月齢のため難しかったが、下の子を家庭保育できる経済状況ではないため、別の場所に子どもを預けざるを得なかった。下の子が通う園も、アットホームで優しい先生ばかりのため、安心しては預けられている。(保護者)
- ・子どもの様子から、雰囲気合っていたところであり、小規模で縦割り保育のため、子ども同士の繋がりも強そうなので選んだ。食育に力を入れており、年長時に畑仕事をするなど、大人でも経験できないことをさせている様子や、通園前は野菜嫌いだった子どもが、園の食育のおかげで野菜を食べてくれた姿を見て、心が動いた。(保護者)

- ・ 自宅の近くがよかったが全く空いていない状況で、自分の実家から近い園を選んだ。母の援助を受ける時も便利だし、里帰り中も上の子が通いやすかったので、良かった。(保護者)
- ・ 幼稚園と認定こども園の違いは、カリキュラムが違う。クラス懇談や個人懇談のような先生と対面して会話する機会や、父兄の会の仕事の量が、圧倒的に幼稚園が多い。ただ、幼稚園は送り迎え以外で園に出向くことが多く、日々子どもたちの様子が見られることが良い。認定こども園は、先生との会話が少ないなと感じていて、先生との繋がりや関係性の濃さが幼稚園とこども園では違う。(保護者)

○保育所等での看護師配置について

- ・ 保育所での看護師の配置は、看護師の視点で、園全体で感染症等が流行っていないかの確認や、万が一の怪我の対応も、保育者よりも専門的な知識を勉強しているので助かる。園児が特殊な病気の場合も、保護者から保育士が注意点等を聞くより、看護師が正確に聴き取り、対応を保育士に説明してくれるので、助かっている。(保育関係者)
- ・ 看護師の配置は保育団体でも要望しているが、看護師も人手不足であるということも制度的に繋がらないところではないかと思う。(保育関係者)
- ・ 子どもの咳がアレルギー性かウイルス性かの判断や、喘息持ちの子どもの吸引のタイミングも判断ができる等の理由で、保育所に看護師がいると安心であるが、看護師がいるからといって、多少体調が悪くても預けるような保護者が出てくるかもしれないという不安もある。(保護者)